

経営体の概要

- 所在地：青森県弘前市
- 経営体名：ミウラファーム・津軽
- 経営面積（平成29年）：
 - 水稲58ha（疎植48.3ha、密播6ha、直播3.7ha）
 - 作業受託（収穫乾燥23ha、無人ヘリ防除2,600haほか）
- 労働力：5名（本人、弟、長男、次男、常用雇用1名）

導入技術

KSAS(クボタスマートアグリシステム)

- ほ場管理システム
スマホ等でほ場を特定
- 食味・収量コンバイン
収量・食味測定
- KSAS乾燥システム
収穫～乾燥調製の見える化

導入の背景

- 周辺農家の高齢化・離農によって、急激に農地が集積。従事者も増加し、紙面・口頭によるほ場の特定、作業者への作業指示とも困難になっていた。
- このため、ほ場の特定と作業効率の向上を目的として、平成26年にKSASを導入することとした。

導入の成果と今後の予定

- ほ場管理システムの導入により、スマホ等でほ場の場所や作業指示を確認できるようになり、作業効率が向上した(当初の導入目的を達成)。
- ほ場管理システムと連携した食味・収量コンバインの導入により、肥沃・湿田等のほ場の特性を把握。その結果に基づく可変施肥(適正施肥)により、肥料費の削減、倒伏の減少、品質・収量の安定化を実現。タンパク値を基準とした「良食味米」の仕分けが可能となった。

- 本格稼働前(平成27年)に比べ、経営面積が8ha(16%)拡大、平均収量は30kg/10a程度増加

〔 経営面積の拡大(50ha→58ha)
収量の向上(600kg/10a→630kg/10a) 〕

- ミウラファームでの取組を参考に、近隣大規模法人も同システムをほ場管理(大豆75ha)に導入

【今後の予定】

- 食味・収量コンバインを追加導入し、玄米タンパクの出荷基準のある「青天の霹靂」を安定生産
- 数年後に予定している法人化の際も、KSASを活用して、さらなる経営安定を図る

